

01

「手の整え」と語の作り方

リン・ヨンシ・ハウ

(カリフォルニア大学サンディエゴ校 [アメリカ])

要旨

「emerging な手話」の語形成の研究は、言語学者にとって非常に興味深いところである。「emerging な手話」は、まず対象の名付け機能において語彙的にも音韻論的にも高度なバリエーションを持ち、複数の記号が同一の指示対象を指すこともしばしばある (Washabaugh 1986; Osugi, Supalla and Webb 1999; Sandler, Aronoff, Meir and Padden 2011; Morgan 2015) ということが記録されてきている。さらにこれらの手話言語は、語形成のパラメーターとなる最小要素の対立に基づいた体系的な音韻組織を示さないものとして記録されており、このことは語が類像的で包括的なプロトタイプとして現れることを示唆するものである (Sandler *et al.* 2011)。

序論

本発表では、サンファン・キアイへ村チャティノ族手話における語形成の語彙的な変異を、社会言語学的かつ認知的な現象、イーミックな用語を使えば「手の整え」として分析する。これはメキシコのオアハカ州に属するサンファン・キアイへ村の先住民のメゾアメリカコミュニティから2世代しか経っていない、5つの家族ベースの手話言語の変種から成るものである。話者は手話の変種を、親族の系図、住居の地図、社会的なネットワークを元に、同居の家族かどうかと生物学的な血縁関係に基づいて区別する。さらに、これらの手話言語の変種は3つの意味範疇、すなわち道具、食物、動物について語彙的なバリエーションの程度に異なりを示す。またそれぞれの家族ごとにとりわけ語彙的な一貫性がある。家族ベースで比較すると語彙的な変異が最も明らかなのは動物の名付けであり、最も少ないのは道具である。このようなパターンは他の手話言語でも報告されている (Padden *et al.* 2013; Hwang *et al.* 2016)。

例えば、全ての家族は「石皿 (製粉などに使われる石器)」を表すのによく似た語形成の、その道具を両手で扱う様子を表現した手話単語を持っている。しかし、その同じ家族が「猫」については別々の形式で表すのである。家族1は猫が立ち、パンチをし、動く様子を、家族2は猫が食べて走り去る様子を表す。家族3は猫のひげの特徴で、家族4は小動物の身の丈を示す慣習的な身振りで表す (Meo Zilio and Mejía 1980)。家族5は噛み付いて走り回る動きを描写する。

本発表では、このような変異のパターンに説明を与える。これらの語形成の多くは、全てではないが、類像性とメトニミーという一般的な認知原理によって形成される (Radden and Kövecses 1999)。変異形式は(1) 類像的なプロトタイプ表現の恣意的な選択 (Occhino, Anible, Wilkinson and Morford 2017)、(2) 指示対象を指すために可能な、慣習的な身振りを含む選択の幅、(3) 表現のスキーマ性と特

異性 (Langacker 2008) によって説明できる。「石皿」を表す手話言語が家族を超えて一致することは、この表現が指示対象の形式と意味の組み合わせを示し、おそらくその類像的なプロトタイプはこれ 1 つに限られることを示唆する。これに対して「猫」には語彙的なバリエーションが見られることは、「猫」の類像的なプロトタイプは 2 つ以上あって、その表現の多くは「猫」のプロトタイプに特化されるというよりは、陸上動物のスキーマに収まるものとなっていることが考えられる。

ここで示す「手の整え」の事例研究は、文化的に、言語学的に、社会的に体現された人間の経験に基づいた複雑な世界の解釈の過程を通じて、新しい語形成がどのように行われるかについての識見をもたらすものである。

参考文献

- Hou, L. Y.-S. (2016). *“Making hands”: Family sign languages in the San Juan Quiahije community* (Ph.D dissertation). The University of Texas at Austin, Austin, TX.
- Hwang, S.-O., Tomita, N., Morgan, H., Ergin, R., İlkbařaran, D., Seegers, S., ... Padden, C. (2016). Of the body and the hands: patterned iconicity for semantic categories. *Language & Cognition*, 1–30. <https://doi.org/https://doi.org/10.1017/langcog.2016.28>
- Langacker, R. W. (2008). *Cognitive Grammar: A basic introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Meo Zilio, G., & Mejía, S. (1980). *Diccionario de gestos: España e Hispanoamérica* (Vol. 1). Bogota: Inst. Caro y Cuervo.
- Mesh, K. A. (Forthcoming). *Spatial Talk in Speech, Gesture and Sign in the San Juan Quiahije Municipality* (Ph.D dissertation). The University of Texas at Austin, Austin, TX.
- Morgan, H. E. (2015). When Does a Word Emerge? Lexical and Phonological Variation in a Young Sign Language. *San Diego Linguistic Papers*, (5), 2–17.
- Occhino, C., Anible, B., Wilkinson, E., & Morford, J. (2017). Iconicity is in the eye of the beholder: How language experience affects perceived iconicity. *Gesture*, 16(1), 101–127. <https://doi.org/doi.10.1075/gest.16.1.04occ>
- Osugi, Y., Supalla, T., & Webb, R. (1999). The use of word elicitation to identify distinctive gestural systems on Amami Island. *Sign Language & Linguistics*, 2, 87–112.
- Padden, C. A., Meir, I., Hwang, S.-O., Lopic, R., Seegers, S., & Sampson, T. (2013). Patterned iconicity in sign language lexicons. *Gesture*, 13(3), 287–308. <https://doi.org/10.1075/gest.13.3.03pad>
- Radden, G., & Kövecses, Z. (1999). Towards a theory of metonymy. In K.-U. Panther & G. Radden (Eds.), *Metonymy in Language and Thought* (pp. 17–59). Amsterdam/Philadelphia.
- Sandler, W., Aronoff, M., Meir, I., & Padden, C. (2011). The gradual emergence of phonological form in a new language. *Natural Language & Linguistic Theory*, 29, 503–543.
- Taub, S. (2001). *Language from the body: iconicity and metaphor in American Sign Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Washabaugh, W. (1986). *Five Fingers for Survival*. Ann Arbor: Karoma Publishers.